

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七

拡大青年部長会議

国鉄「分割・民営化」阻止ノ三里塚二期着工粉碎ノ  
三里塚-国鉄決戦の中軸として

# 強執な青年部を 反動中曾根をうち倒す

四月十三日、十四日、全支部より青年部三役・常任委員四〇名が集り、拡大定期青年部長会議が開催された。

## 中曾根の戦争政策を許すな

「分割・民営化」・十五万人首切り攻撃＝戦争へむけた国鉄労働運動解体攻撃との闘いは、いよいよ本番戦をむかえている。また、急迫する三里塚二期工事本格着工情勢を見ても、やりたい放題、いたい放題のことでして、日本全体を戦争においたてていこうとする中曾根の戦争政策全体の動きを見ても、この一、二年のうちに、日本の労働運動、労働者人民の未来を大きく左右するような情勢が、われわれの前に到来している。

とくに、「60・3」以降の「過員活用」攻撃との闘いのなかで、青年部が、このような今まで経験したことのない情勢を前にして、どのような攻撃の前進にもたじろがない「不屈・非妥協」の青年部をつくりあげること―そのステップとして、拡大青年部長会議は開催された。

## 「60・3」の意義を確信しよう

一日目は、主催者を代表しての青年部長あいさつの後、来賓として指紋押捺拒否千葉県予定者会議の仲間よりアピールを受け、ただちに議案の「総括提起」に入った。とりわけ、「60・3」大合理化に対し、単独で実力決起をうちぬき、全国の国鉄労働者に闘うべき方向性を鮮明に示しぬいた闘いの総括は、確信をうち固めるものであった。一日目の第二議題は、杉田明氏による講演である。活発な総括論議を中断し、「『分割・民営化』―十五万人首切り攻撃をいかに闘うか」と題して、

「60・3」ダイ改阻止実力決起と「3・24三里塚5割決起の先頭にたった動労千葉青年部。(3・24三里塚2000名国鉄労竹者の先頭を進む青年部と国労女闘)



## 二時間にわたる徹底的な討論で方針を決定

二日目は、常任委員会より、情勢及び方針の提起がおこなわれた。とくに、討論のはじめに、銚子支部より参加した仲間が報告にたち、「銚子も今回の転勤によっていよいよ青年部を結成します。銚子支部青年部が全体を牽引するように、全力でがんばりたい」と発言、全体のさかんな拍手で確認された。つづいて、二時間にわたる徹底的な討論ののち、「三里塚・国鉄を軸に中曾根の戦争政策と真向から対決する基本路線のもとに、革マルの謀略攻撃をうち破り、中曾根に負けないよう徹底的に青年部を強化しよう」と全体で確認、圧倒的な成功のうち全日程を終了した。

「60・3」ダイ改阻止 実力決起、「3・24三里塚」5割動員貫徹に続くこの決起を起点に、津田沼電車区を重点とする謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り「三本柱」粉碎―「過員対策」強行阻止、動労「本部」革マル・土屋一派粉碎・一掃へ向けて、さらに闘う体制を強化しなければならぬ。

各支部は一九八五年四月十六日、二〇時三〇分をもって「指令第十四号第一項、および第二項」の準備体制および籠城体制を解除すること。

85春闘

## 4.17非協力・安全確認行動の準備体制 解除について

四月十六日、津田沼電車区構内で開催された「85春闘勝利、謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り『三本柱』粉碎、4・16動労千葉総決起集会」は、全支部から四九六名の結集をもって、圧倒的成功をかちとった。

「60・3」ダイ改阻止 実力決起、「3・24三里塚」5割動員貫徹に続くこの決起を起点に、津田沼電車区を重点とする謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り「三本柱」粉碎―「過員対策」強行阻止、動労「本部」革マル・土屋一派粉碎・一掃へ向けて、さらに闘う体制を強化しなければならぬ。

総評・公労協は、四月十六日、十五時五〇分から開催された政労交渉で「民賃動向を反映した有額回答を格差なしで十九日に行わせること